

入選

水に習う

小学六年生の時、水に関する衝撃な三つの体験をした。

一つ目、小学六年間、僕らの育成会では、田んぼの生き物調査を毎年行った。昔から沢水が流れる堀で、カワニナやトウキョウダルマガエルなど珍しい生き物が生息する田んぼだったが、周りが住宅地に整備されて堀に入る水が変わったせいも、年々生き物の種類も個体数も減って、とうとう珍しい生き物はいなくなってしまうた。自然が壊れていく様子を見た。

二つ目、長崎で連立ソフトボールの試合をした。大事な準決勝だというのに、腕に力が全く入らなくて投げられなくなった。パートナーであるキャッチャーも腕がけいれんを起こした。僕らは炎天下での練習も試合も慣れていたはずなのに、少しの気温と

湿度の違いと慣れていない熱帯夜で、肝心な全国大会で初めて脱水症状になった。水は、身体に必要な不可欠だと思い知った。

三つ目、東日本を襲った台風は阿武隈川を氾らさせて、僕の友達の家も、僕が通うスイミングスクールも、兄の高校も浸水して、ぐちゃぐちゃになった。いつもはあんなに浅く細く見える阿武隈川が、まさか堤防が決壊してこんな光景になるなんて。台風や大雨のニュースが身近でおこりうるとは思わなかった。

それまでの僕は、水といえば、大切だというのは分かっていたけど、当たり前にある生活の水やプールの水が思いつくぐらいで、あまり深く考えたことがなかった。だけど、この三つの体験で、命の水と水の怖さに気付いた。

矢吹町立矢吹中学校 三年

有松^{ありまつ}

映柊^{えいと}

人間の身体にも生活にも必要不可欠な水は、生き物にとっても同じことだ。開発は、生息地を奪うこともある。こうした自然破壊が、やがて異常気象を生んで僕たち生き物をおそい、また命や生息地を奪われる。水は僕たちをつくり、水は自然をつくる。自然と共存し、限りある資源を守るのもまた、僕たちだ。

「SDGs、十七の世界目標」は、エネルギーや自然資源や環境問題が関係する目標がたくさんある。汚染された水を飲んでいたり、水不足に悩む国、下水がなくて不衛生な国など、僕の知らない世界の水の問題もたくさんあって、一つの問題はまた違う問題と、とても関係している。

僕たちは、まず、一人一人が少しでも環境問題に興味を持つことが必要で、テレビで放送されている環境問題に関する特集や新聞に記載されているページをよく見て、環境問題に対する知識を得ることや、節水や節電をする、ゴミを分別する、ポイ捨てをやめて土地を汚さない、プラスチック製品の利用を控える。また、身の回りの環境を整えて、きれい

な状態で生活を送ることができるようになるためには、トイレを汚さないこと、定期的に掃除をして清潔に保つこと、車で使用するエアコン、家で使用するエアコンの使用を控え、二酸化炭素の排出量を減らすこともまた、環境問題に取り組むことの一つだと思う。

個人ができる行動の一つ一つは小さくても、それが大きな影響を及ぼして地球のために、これからの未来になることだという意識を持ち、行動に移すことが、大事なことだと思っている。地球を守ること、水を守ることと同じだと思う。